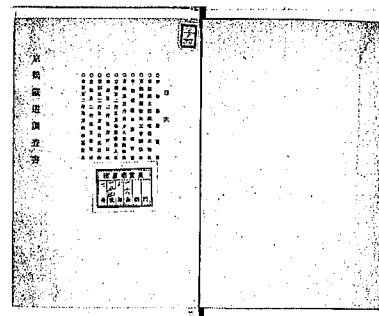


別紙様式 3

4 大学連携研究（公募型）支援費に係る研究成果（ホームページ用）

事 項	(所 属)	(職 名)	(氏 名)
共同研究 代表者	京都薬科大学	教授	鈴木 栄樹
研究組織 の体制	京都府立大学	教授	小林 啓治
	京都工芸繊維大学	教授	中川 理
研究の名称	近代化と地域社会の変容—京都地域と丹後地域を事例に—		
研究のキーワード（注1）	幕末京都／災害／軍都／役場文書／戦時体制		
研究の概要 （注2）	<p>幕末・明治維新を経て、日本は諸外国との外交・貿易関係を発展させるとともに、欧米をモデルとする近代化・工業化を急速に推進していったが、その過程で、日本の各地域においては在来の伝統的な社会が大きく変容を迫られていった。本研究では、近年における研究の進展や資料の公開などをふまえ、京都府下における都市部の京都地域と農村部の丹後地域を事例として、明治維新前後より敗戦前後にいたる過程での地域社会の変容過程を再検討するとともに、新たな資料の調査・公開をめざした。鈴木は、とりあえず幕末の京都において重要な役割を担った平塚飄斎や鳩居堂熊谷家関係の資料の調査、その一部を翻刻し、さらに公開した。小林は京丹後市が保存している近代の役場文書や学校文書について整理・調査を行い、その一部について目録を作成した。中川は、京都府北部の中核都市である舞鶴は、軍都として明治期に大規模な都市計画事業が実施され、現在の西舞鶴地区が形成された。その事業の計画、実施過程について、史料と現地調査で明らかにすることを試みた。</p>		



鍛本吉太郎編『京鶴鉄道調査書』（京都商業会議所、1892年、近代日本デジタルライブラリーより）

<p>研究の背景</p>	<p>幕末から近代にかけての京都府下の歴史については、多種多様な歴史資料に基づいた検討が十分に行われてきていない。まずは、そうした歴史資料の調査・公開が行うことが重要であると考えた。</p> <p>たとえば、京丹後市で保存されている近代文書は全国的に見ても量が多く、質的にも大変貴重なものが残されている。これらの文書を利用することによって、ことに1930～40年代の戦時体制の実態を明らかにすることが可能であると考えた。</p>
<p>研究手法</p>	<p>(鈴木) 東京や京都の資料所蔵施設において所蔵されている幕末から明治にかけての資料の調査・翻刻・公表を目指した。</p> <p>(小林) 現地調査を行い、目録を作成することが望まれる旧役場文書を選定。院生の協力をえて、簿冊を年代順に配列した上で目録を作成した。</p> <p>(中川) 軍都舞鶴では明治期に大規模な都市計画事業が実施され、現在の西舞鶴地区が形成されたが、その事業の計画、実施過程について、史料と現地調査で明らかにすることを試みた。</p>
<p>研究の進捗状況と成果</p>	<p>(鈴木) 京都市歴史資料館所蔵の「熊谷家文書」の調査と複写、また東京大学史料編纂所所蔵の「維新史料綱要」中の鴨川浚渫事業に関連する諸資料の翻刻を行った。さらに、国立公文書館所蔵の資料中から「平塚瓢斎に関する東京府作成の「調査」」を公表した。</p> <p>(小林) 『京都府竹野郡浜詰村役場文書目録・旧弥栄町役場保存文書目録』を作成した。</p> <p>(中川) 『京都 近代の記憶：場所・人・建築』（思文閣出版、2015年9月刊）を出版した。</p>
<p>地域への研究成果の還元状況</p>	<p>「近代化と地域社会の変容- 京都地域と丹後地域を事例に-」（於京都薬科大学、2015年11月7日）と題して、招聘講師も交えて以下のシンポジウムを開催した。</p> <p>また、京都府立大学では、2015年に京丹後市との包括協定が結ばれたこともあり、今回の研究成果は京丹後市をはじめとする北部地域に対する地域貢献につながる。さらに、京都工芸繊維大学では、平成28年度より北京都分校（福知山キャンパス）を設置し「地域創生Tech Program」をスタートさせた。本研究は、本研究はこのプログラムの研究分野の基盤を作る上で大きく貢献するものとなる。</p>
<p>研究成果が4大学連携にもたらす意義</p>	<p>今回は、3大学の教員の連携研究にとどまったものの、研究対象時期や関心、専門を異にする研究者が、1つのテーマのもとに研究を行ったことで相互の知的刺激となり、新たな問題関心なども醸成されてきたように考える。今後は、京都府立医科大学の研究者にも呼びかけ、継続して研究を実施していきたい。また、こうした研究がそれぞれの大学における教育、また地域の人たちへの還元していくことに大きな意義を見いだすこともできるかと考える。</p>

<p>研究発表 (注3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「近代化と地域社会の変容- 京都地域と丹後地域を事例に- 」と題して、招聘講師も交えて以下のシンポジウムを開催した。 日時：2015年11月7日（土）午後1時～6時 場所：京都薬科大学 愛学館 A21講義室 鈴木栄樹「幕末京都の「賑わい策」一鴨川浚え・四条大橋新造・湖北通船路開削」 小野芳朗（京都工芸繊維大学大学院 教授）「近代御所用水の防火と水利一京都盆地の水は誰のものか」 中川理「京都と土木技師一京都市と舞鶴に見る技師の役割」 坂根嘉弘（広島修道大学 教授）「舞鶴軍港と地域社会の変容」 飯塚一幸（大阪大学大学院 教授）「「裏日本」化のなかの宮津」 小林啓治「役場文書からみた戦時体制一丹後地域の事例から」 ●鈴木「平塚飄斎に関する東京府作成の「調書」」（『京薬論集』第21・22合併号、京薬論集刊行会、2016年3月） ●鈴木「京都織物会社の創設と浜岡光哲」（『経営ノート』No. 254、京都総合経済研究所、2015年4月） ●鈴木「京都織物会社の理想と現実」（『経営ノート』No. 255、2015年6月） ●鈴木「亀岡の逸材 田中源太郎」（『経営ノート』No. 256、2015年8月） ●鈴木「亀岡銀行と田中蔵一・源太郎父子」（『経営ノート』No. 257、2015年10月） ●鈴木「田中源太郎と「京鶴鉄道」」（『経営ノート』No. 258、2015年12月） ●鈴木「旧彦根藩士西村捨三と第4回内国勸業博覧会」（『経営ノート』No. 259、2016年2月） ●小林『京都府竹野郡浜詰村役場文書目録・旧弥栄町役場保存文書目録』（2016年3月） ●小林『総力戦体制の正体』（柏書房、2016年5月刊行予定） ●中川『京都 近代の記憶：場所・人・建築』（思文閣出版、2015年9月）
----------------------	--

注1 「研究のキーワード」欄には、ホームページ閲覧者が、研究内容のイメージをつかめるように、キーワードとなる用語を3個から5個程度、記述すること。

注2 「研究の概要」欄には、ホームページ閲覧者の理解の助けとなるように、写真、表、グラフ、図などを用いて、作成すること。

注3 「研究発表」欄には、論文、学会発表、ニュース・リリース等について記述すること。

注4 研究成果が「知的財産」の発明に該当する場合は、ホームページでの公表により、新規性の喪失となるため注意すること。

注5 本書は、A4サイズ3ページ以内とすること。